

第六回矢上祭（2005年度）

活動報告書

2006年3月



慶應義塾大学 環境サークルE.C.O.

はじめに

慶應義塾大学環境サークル E.C.O.では、同大学理工学部学園祭である矢上祭において、大きく2つの活動をしています。環境対策、そして室内企画です。E.C.O.の代表的な活動として、三田祭、環境週間があげられますが、矢上祭はそれと並んで規模の大きいものです。しかし、その活動は意外に外部に発信されておらず、この機会にと思い立ち報告書にまとめました。皆様に E.C.O.の矢上祭における活動をご理解いただき、今後の活動にご声援・ご協力いただければ幸いです。

2006年3月吉日

2005年度矢上祭全体・室内企画責任者
理工学部化学科2年 矢野嵩典
同 環境対策責任者
法学部法律学科2年 坂口緑

第六回矢上祭概要

開催日時：2005年10月15日(土)16日(日)
開催場所：慶應義塾大学理工学部矢上キャンパス
本年度テーマ：『COLORS』
来場者数：約6000人(2004年度)
主催：矢上祭実行委員会
公式 Web サイト：<http://www.yagamisai.jp/>

E.C.O.は1991年にスタートした慶應義塾大学の環境サークルです。「環境問題について考え、身近なところから行動していく」を基本理念に、さまざまな活動を展開しています。

矢上祭においては、矢上祭実行委員会と協力して環境対策のお手伝いを行なっています。また、一般参加団体として室内企画に参加しています。

慶應義塾大学 環境サークル E.C.O.
公式 Web サイト：<http://keioeco.net/>

目次

はじめに、第六回矢上祭概要	2
環境対策	4
概要	
活動内容	
活動報告	
展望	
参考資料	
室内企画	7
概要	
企画内容	
当日会場の流れ	
展望	
参考資料	
お世話になった方々へ、おわりに	12

《環境対策》

文責：坂口緑

概要

矢上祭環境対策は、矢上祭で来場者が出すごみの削減、矢上祭に関わった人々（来場者、塾生）の意識改革を目的に毎年行なっています。

活動内容

来場者向けの特設ごみ箱であるごみステーションにおいて、ごみを捨てて来た来場者のごみ分別のお手伝いを行ないました。また、使用したヨコタ東北様のリサイクル容器「ミンミ・リ・リパック」(以下ミンミ)を回収し、箱詰めしました。

活動報告

【ごみステーション】

キャンパス内にごみステーションを3箇所設置し、一般客に開放する場所にある従来のごみ箱を全て封鎖しました（資料1）

分別の種類は8種類としました。

- ・燃やせるごみ
- ・缶
- ・ビン
- ・ペットボトル
- ・プラスチック類
- ・割り箸と竹串
- ・汁物の残飯
- ・ミンミ

ごみステーションでの分別指導はひとつのごみステーションにつき、15日（土）はE.C.O.部員、16日（日）は模擬店・喫茶店の方とE.C.O.部員で行ないました（資料2）。

模擬店・喫茶店のごみは自己責任で集積所に持って行っていただきました。ミンミはE.C.O.で回収しました。

【分別後のごみ処理】

プラスチック類：19時以降にE.C.O.部員でプラスチック製容器包装とそれ以外のプラスチックに分別しました。プラスチック製容器包装は洗浄後、集積所に置き、第一清掃様に回収していただきました。

ミンミ：E.C.O.部員で拭いて、矢上祭実行委員会にリサイクルセンターへ送っていただきました。

汁物の残飯：残り汁は生協のグリストラップ（生協の厨房にある、業者が汲み取って油を分離する装置）で処理していただきました。

割り箸と竹串：燃やせるごみの袋が破けるのを防ぐために分けただけなので、ある程度たまったら、燃やせるごみに入れました。

【環境対策の宣伝】

パンフレットに、ヨコタ東北様、ミンミ、ごみステーションの広告を載せていただきました。

封鎖した屋内ごみ箱に、ミンミとごみステーションの広告を貼りました。

模擬店に、ミンミの広告を掲示していただきました。

【模擬店の上記以外の協力】

ごみステーションの負担軽減のため、ごみステーション封鎖 30 分前に営業を終了していただきました。

展望

ごみ削減の新たな取り組みとしては、横浜市の新しい分別品目に合わせてプラスチック製容器包装を分別して欲しいとの学校側の要請により、今年度はごみステーションにてプラスチック類を分別し、回収後 E.C.O. でプラスチック製容器包装とそれ以外のプラスチックに分別・洗浄しました。けれども予想以上にプラスチック製容器包装が多く、処理にかなりの時間をかけてしまいました。水道や場所の問題はありますが、プラスチック製容器包装のごみステーションでの分別・洗浄もやり方によっては可能なようなので、来年度は負担軽減ができればと考えています。

今年のミンミ回収率は約 65% でした。矢上祭は地域密着型で家に持ち帰って食べる客が多いので、全て回収するのは難しいですが、今後もより回収率を上げていければと考えています。

- ・ 発注枚数：蓋抜きで 10400 枚
- ・ 未使用枚数：約 1500 枚
- ・ 回収枚数：5792 枚
- ・ 回収率：約 65%

意識改革については、来場者の方々に自分で分別していただくことで、環境に対する意識を高めるきっかけになったと思います。それは来場者の方々に限らず、模擬店の方々に対しても言えます。やっていることは小さなことでも、矢上祭に関わった人々の意識が変われば、社会をよりよい方向に動かせるかもしれません。やりがいのある仕事だと思えます。

また、模擬店の意識改革を目指して、今年は衛生講習会にて E.C.O. が説明したり、試しに罰則（脅しの効いた注意事項程度のもの）を設けるなどをしましたが、大幅に改善されたわけはありませんでした。やはり、模擬店のごみ担当者を決めて徹底的に指導するなどの方が、効果があるのかもしれません。

参考資料

以下に資料として実際の写真をまとめました。参照していただければ幸いです。

【資料1】ごみステーションの様子



【資料2】来場者にごみ分別指導



《室内企画》

文責：矢野嵩典

概要

矢上祭室内企画は、簡単な実験や体験コーナーを通じて地域の小学生から大人まで幅広い年齢層に環境問題に関心を持ってもらうことを目的に行なっています。毎年「わかりやすく、また楽しみながら環境に触れられるような企画」を目指しています。

本年度は「世界の中心でごみを分ける」と題して、最近深刻化しているごみ問題をテーマとし、ごみ分別とリサイクルのコーナーを設けました。このテーマを選んだ理由として、1. 来場者にとって身近な問題であり、日常生活でも生かせる、2. E.C.O.のメンバーの得意分野であり、企画実施において共通認識が図れるという大きく2点があげられました。

企画内容

【ごみ分別】

実際にごみの分別をゲーム感覚で楽しんでもらい、更にそれに関するクイズに答えてもらうことで、ごみの分別に関する知識と意識を高めてもらおうというコーナーとしました。

【リサイクル】

リサイクルとは何か、何のためにリサイクルは必要なのかを考えていただくことを目的としました。主にペットボトルや発泡スチロールなど、身近なプラスチック製品が分別回収されたのち、どのようにリサイクルされ再製品化されるのか、実験・展示を通して説明しました。そのなかで現在のリサイクルの問題点についても言及し、その問題点を解決できるリサイクルの新しい技術として、生分解性ポリマーについても紹介しました。これからの循環型社会のために、リサイクルの可能性や必要性を消費者に意識し、自分に何が出来るか考えていただけるようなコーナーとしました。

当日会場の流れ

以下の通りです。下の順に来場者がみていけるように会場をセットしました。机を並べて迷路状にし、順路に沿って誘導しました。

1. 受付

2. ごみ分別

「身近なところ」のごみ問題を重視し、わかりやすく解説

2.1 パネル説明（ごみ分別方法概要（横浜市を例に） ごみ分別の必要性とその行方）

キーワード「混ぜればごみ、分ければ資源」

2.2 体験コーナー

横浜市のごみ分別方法に基づいた、ごみの一例からその分別種類を当てる神経衰弱ゲームを実施（例：アルミ缶、ビン、カン、ペットボトル）

2.3 クイズコーナー

体験コーナーを受けたペットボトルの分別方法の注意点を紹介、リサイクルマークに関するクイズを実施

3. リサイクル

「知ってそうで意外と知らない」リサイクルの現状をピックアップ。日々研究されているごみ問題解決のための技術を紹介。

3.1 リモネンを用いた発泡スチロール（ポリスチレン）のリサイクル[実験・展示]

3.2 ペットボトルのリサイクル

ケミカルリサイクルとマテリアルリサイクル[展示]

ペット樹脂の熱分解[実験]

3.3 新技術紹介

生分解性プラスチックに関するトピック、関連商品紹介、竹布の紹介[展示]

4. まとめ

一番大切なのはものを大事にすること。使えるだけ使ったものは分別してリサイクルできるものはまわせるようにすべき。地球人として限りある資源を大切に利用しよう。

5. アンケート

展望

実際の会場の様子は写真の通りでした（資料3）。会場では小学生を中心に楽しんで学んでもらうことができました。中には何度も会場に足を運んでくれた子もいて、会場は大いに賑わいました。大人でもわっと声をあげてくれる方がいました。

矢上祭の後日行なわれた矢上小学校の生徒発表会であるフェスティバル矢上で、私達が行なったごみ分別神経衰弱ゲームが小学生の展示・体験企画に取り入れられていました（資料4）。これは私たちの活動をそのまま小学生が理解してくれた証と言えると思います。この様子をみたときは、驚くと同時に嬉しくなりました。矢上祭の「環境教育実践の場」としての重要性、普段からのごみ拾い活動をはじめとした小学校との交流の大切さを感じました。

来場者の動向は主に天候とイベントに左右されていました（資料5）。来場者全体の44%が小学生は、特筆すべきことです。

アンケートの結果、過半数の方々に高い評価をいただきました（資料6・7）。来年度もより高い評価が得られるよう、サークル一丸となって企画作りに励んでいきたいと考えています。

参考資料

以下に資料として実際の写真や分析したデータをまとめました。参照していただければ幸いです。

【資料3】会場の様子



ペットボトルコーナーにて

【資料4】2つのごみ分別神経衰弱



大学生が企画したごみ分別神経衰弱

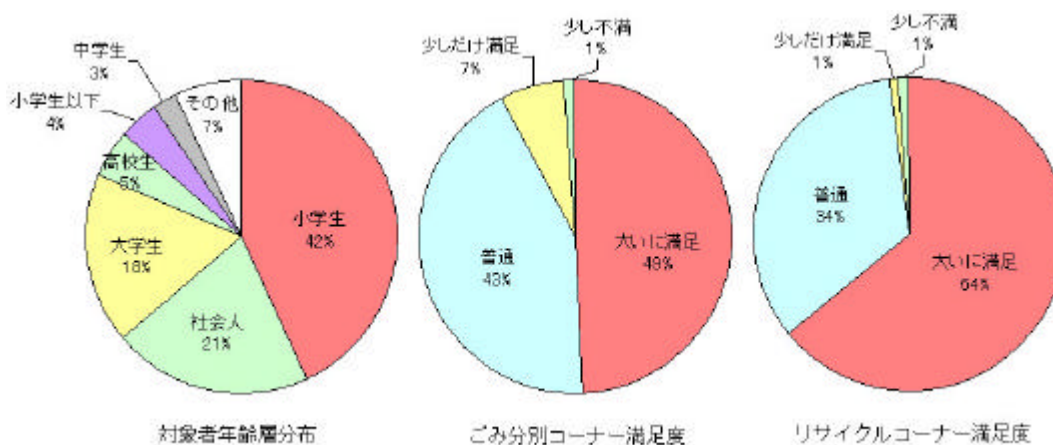
後に小学生が企画したごみ分別神経衰弱



【資料5】矢上祭来場者動向 2005

日時	小学生	その他	備考
10月15日	晴れのちくも		
12:00-13:30	22	28	12:15 開始直前からお客さん来場
13:30-15:00	29	44	
15:00-16:30	25	35	
16:30-18:00	2	7	
日合計	78	114	
10月16日	午前 :雨 午後 :くも		
10:00-11:30	44	16	エコツアー
11:30-13:00	1	2	
13:00-14:30	13	31	矢上小合唱前
14:30-16:00	36	56	
16:00-17:30	15	14	
17:30-18:30	4	8	
日合計	113	127	
総計	191	241	来場者全体の44%が小学生！
	432		

【資料6】アンケート集計結果（回答者：200名）



【資料7】アンケートで得られた意見（抜粋）

[小学生以下、小学生]

- ・ 神経衰弱ゲームがおもしろかった。ゴミ分別はいろんなことが分かった。小学生
- ・ 実際にやって見せてくれたり自分もやれたりしてよかった。小学生
- ・ 家でも分別をしたい。小学生
- ・ とても楽しく遊ぶ感覚でリサイクルやゴミ分別も分かるようになった。小学生
- ・ あんなに固いペットボトルや竹があんなふわふわになったのが驚きだった。小学生
- ・ 2年生なのでよく分からないところもあった。実験とゲームは楽しかった。小学生
- ・ 家でもなるべくリサイクルをして地球に優しい生活をしたい。小学生
- ・ 生分解性プラスチックが難しかった。小学生以下

[中学生]

- ・ プラスチックが溶けて糸になるところがすごかった。家でも少し気をつけてペットボトルなどリサイクルをしていこうと思う。中学生

[高校生]

- ・ 実際に発泡スチロールを分解する様子が見れて良かった。高校生
- ・ 理工学部に行くきっかけになると思う。高校生

[大学生・院生]

- ・ 協賛企業がもしあるのなら、そのパンフレット等ももらえるとよい。大学院生
- ・ エコロジー意欲がわいた。少し高くても地球にやさしい商品を買いたいと思う。大学生
- ・ 良い点だけでなく、なぜそれが普及しないのかという課題を提示すべき。子供に興味をもたすには良い面だけよりも悪い面も見せるといいと思う。大学生
- ・ 個人的に興味を持っていた竹布ですが、まさか実物を見れるとは思わなかった。大学生
- ・ 想像以上に面白かった。発泡スチロールをつぶしたのが楽しかった。大学生
- ・ ペットボトルから衣服を作るという過程が今まで実感できなかったが、簡単な実験を通して理解することができてよかった。生分解性プラスチックに非常に興味を持てた。発泡スチロールのリサイクル法を知れてよかった。大学生

[社会人（主婦含む）]

- ・ 子供にも分かりやすい実験でとてもよかった。主婦
- ・ 子供向けに5分程度のビデオ上映などがあるとよい。主婦
- ・ 横浜 G30 協力なので個人として見ないで自治会の皆にも見せたい。主婦
- ・ 竹からどのようにプラスチックができるか具体的に見てみたかった。社会人
- ・ 紙を貼る位置が小学生には高い。社会人
- ・ 環境問題は全世界で活動しているのでこういう PR はどしどし行うことが必要。勤め先でも ISO14000 を取得しているのでリサイクルの新しい技術が分かっただけでも良かった。社会人
- ・ 説明が長くて途中で飽きる。1分以内が目安。社会人
- ・ よく理解しやすい説明で少し自分の生活に反省する機会が持てた。社会人
- ・ 実験と体験がどの年齢に対しても興味をひくもので大変面白かった。社会人

お世話になった方々

第六回矢上祭において活動を行なうにあたり、たくさんの方々にご協力いただきました。この場を借りて部員一同深くお礼申し上げます。

(全体)

- ・ 慶應義塾大学 矢上祭実行委員会
- ・ 慶應義塾大学日吉運営サービス担当係主任 土田 平和様

(環境対策)

- ・ 慶應義塾大学矢上用度課の方々
- ・ 慶應義塾大学矢上学生総合センターの方々
- ・ 研興管財株式会社取締役常務 橘 賢二様

(室内企画)

- ・ 慶應義塾大学理工学部応用化学科 松村研究室
- ・ 横浜市立矢上小学校
- ・ 資料提供をしてくださった企業団体の皆様

おわりに

矢上祭は、E.C.O.にとって普段の勉強会活動や環境教育活動、そして個々の環境問題に対する考えをアピールする場であり、それを一般の方々と共有できる場であると考えています。今年度矢上祭の全体的なテーマとしてとりあげた「ごみ問題」をはじめ、環境問題は一人で解決できるものではありません。皆が協力しあい、意識しあって初めて道が開かれるものです。私たちの地道な環境活動が、大学生らしい学園祭でのおもてなしによって広まっていけば、これほど嬉しいことはありません。

この活動報告書を読まれたご意見や感想等あれば是非お願いします。メール(アドレス: info@keioeco.net)等で受け付けております。皆様からの声をもとに、更に充実した活動を展開していきたいと考えています。これからも環境サークルE.C.O.をよろしく願います。

慶應義塾大学 環境サークルE.C.O.